

新型コロナウイルス感染症対策 消毒作業マニュアル

2020.7.31 設楽町新型コロナウイルス感染症対策本部作成

配置人数は、感染者の行動状況により検討する。消毒にかかる時間は、1時間以内とする。短時間で行動範囲が狭い場合、一室あたり2名を基準とする。部屋をまたいで消毒が必要な場合、各部屋に2名必要。トイレの使用があればトイレ消毒用に2名必要。

スタッフ装備

手袋、マスク、プラスチックエプロン着用。

必要物品：エタノール消毒液もしくは次亜塩素酸ナトリウム消毒液・バケツ・スプレー容器・ペットボトル（500ml）・ふき取り用雑巾等（捨てられる清拭用の古布等）・ゴミ袋・手指消毒薬（ハンドソープ等）

物品管理：設楽町新型コロナウイルス感染症対策本部事務局

消毒手順

1. 施設内の患者の行動範囲を施設管理者からの聞き取り等により可能な限り把握する。
(どこをどのように消毒するのか)
2. スタッフの防護具を適切に着用する。
3. 施設内の換気ができる場合は、換気をする。
4. 高頻度接触部位及び物品を布等で清拭消毒。
 - ※人の届く範囲を丁寧にふき取る。金属部分に錆の発生や変色するおそれのある箇所は、清拭5分後に水拭きでもう一度ふき取る。
 - ※布等は汚染面を使わず、全体的に汚れたら新しいものに替える。机の上など広い場所は、一筆書きの要領でゆっくり動かしてふき取る。雑にぐるぐる回すように素早く行くと拭き残りが出て菌を広げてしまうので注意。
 - ※薬剤臭が強いと感じた場合は少しずつ時間をおいて作業する。
 - ※エタノールを使用の際は、引火性が強いので火気に注意する。
 - ※次亜塩素酸ナトリウムは、酸性洗剤と混用すると有毒ガスが発生するので注意。
5. 使用済みの布等は、ゴミ袋に入れ口を縛る。
6. 室内消毒の終了後、顔に触れないように丁寧に防護具を脱ぐ。(場所は、換気のよい戸外等)
 - ①プラスチックエプロンと手袋は一緒に裏返しながら脱ぐ素手で汚染部(表面)に触れないように小さくまとめてゴミ袋に入れる。→**手洗い**→**手指消毒**
 - ②マスクが汚染した場合も汚染部に触れないようにゴミ袋に入れる。→**手洗い**→**手指消毒**
7. ゴミ袋は密封し、通常の可燃ごみと分別して処分する。

概ね2名1チームで実施し、体調不安等感じた場合は無理をしない

新型コロナウイルス感染症に対する

感染管理・消毒について

2020.7.31 設楽町新型コロナウイルス感染症対策本部作成

新型コロナウイルスの残存期間（2020.6.2 国立感染症研究所）

- ・ エアロゾル（空気中に漂う微細な粒子）：3 時間
- ・ プラスチックやステンレスの表面：72 時間
- ・ 銅の表面：4 時間 段ボールの表面：24 時間
- ・ SARS は 6～9 日、MERS は 48 時間以上

※ 新型コロナウイルスは、70～95%アルコール（60%でも有効の報告あり）または 0.05%次亜塩素酸ナトリウムで消毒の励行が望ましい。

不特定多数が利用する施設内で患者が発生した場合

大がかりな消毒は不要。

長時間の滞在した場所は、換気。患者周囲の高頻度接触部位物品等などはアルコール消毒液あるいは次亜塩素酸ナトリウム消毒液による清拭で消毒。

患者や濃厚接触者が使用したトイレ…次亜塩素酸ナトリウム消毒液またはアルコール消毒液による清拭 当分の間毎日実施を推奨。

症状のない濃厚接触者の接触物等に関する消毒は不要。

参考情報

感染経路別予防策 ①飛沫予防策…飛沫が目や鼻や口の粘膜に付着するのを防ぐ

②接触予防策…ウイルスが付着した手で目鼻口の粘膜と接触するのを防ぐ

※気道分泌物および糞便から分離し環境汚染あり。

医療従事者 標準予防策（呼吸器症状のある患者の診察時は、サージカルマスク、手指衛生）を実施。マスクや手袋を外す際は、環境を汚染しないよう注意。手指衛生の前に目や顔を触らないようにする。

医療機関での換気 病室等の陰圧室は必須ではないが、通常個室で管理し室内の換気（6 回/時以上）が望ましい。外来待合室では一定の距離が保てるように配慮する。

呼吸器症状のある患者には、サージカルマスクを着用させる。

患者の使用した食器やリネン 通常の熱水洗浄（80℃、10 分間）で問題なく特別な対応は不要

【参考文献】

新型コロナウイルス感染症に対する感染管理

国立感染症研究所・国立国際医療研究センター国際感染症センター2020 年 3 月 5 日

医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第 2 版

2020 年 3 月 2 日

新型コロナウイルス対策自分で行う消毒マニュアル 日本ベストコントロール協会

2020 年 2 月 27 日